

心理学講座たより

「心理学講座」第16回配本附録

東京都神田局区内神保町2の24 電車通り

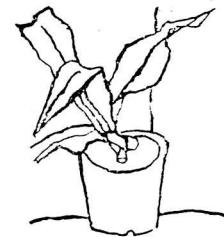
株式会社 中山書店

心理学が、独立の学であることはいうまでもないが、あらゆる科学が、そうであるように、研究が進みにしたがつて、他の諸科学との関連が問題になって来る。たとえば、心理学と生理学、心理学と社会学などの関係は、全くきりはなせないものである。また動物心理学などは、心理学の一部門とも考えられるが、生物学ときりはなすわけにもいかない。

これを一般問題としていえば、現代の諸科学は、いずれも固有の対象をもち、固有の方法をもつ独立の科学であると同時に他の諸科学に対しても、いつも、境界領域の場となるのである。境界領域そのものが、独立の学として体系づけられることもありうるが、それよりは、諸科学相互の関係として、ここにいったような考え方をした方が正しいのではないかと思われる。心理学には固有の領域がある。しかし、同時に、心理学そのものを、一つの境界領域の場として考えることも可能である。そう考えた方

が、心理学が、独立の学であることはいうまでもないが、あらゆる科学が、そうであるように、研究が進みにしたがつて、他の諸科学との関連が問題になって来る。たとえば、心理学と生理学、心理学と社会学などの関係は、全くきりはなせないものである。また動物心理学などは、心理学の一部門とも考えら

れるが、生物学ときりはなすわけにもいかない。



心理学講座の完結を喜ぶ

中 島 健 藏

がいい場合も多い。音響学、感覺生理学、心理学は、音を考え、音楽を考える場合、ひとつながらのものとなる。ここにどうしても、社会学が結びついて来る。音楽学という學問があるとすれば、やはりここに参加する。どこを場として選んでもいいが、場のえらび方によつて、重点もちがつて来る。

そのほか、きわめて純粹な科学も、現代では、その社会化から切りはなして考えるわけにはいかない。心理学は、当然、生産工学、教育学と結びつく。そして、もっと広く、実用の点で人間生活に直結することになる。

心理学の体系は、けつきよく、どうはしょつても、きわめてはばの広いものになる。研究としては、一人であらゆる方面に手をのばすことがむずかしく、また、あまりに手をひろげすぎることは、無意味である。ジャーナリストでさえ、多少の専門化が必要になつてゐるのが今日の現状である。

「講座」という総題の出版物はこのようない関連を明かにし、知識の総合を目的とするものであろう。狭い専門の研究だけではなく、さまざまな専門家が、関係領域の進歩を知り、専門家でない人々が、自分の職業や生活に役立たせるための出版は、時々新しく計画されなければならない。でき上つた講座を見ると、そのような体系がはじめから存在していたように思われるかもしれないが、実は、編集会議そのものが、一つの機会なのであって、その時初めて諸関連

がまとめて考えられる場合も多いのである。日本応用心理学会は、きわめてはばの広い学会である。そのような学会の編集による心理講座は、それにふさわしく広い内容をもち、完結したのを見ると、これまでなく有用であることがわかる。最近のトピックの一つであるサイバネティクスにいたるまで、ほぼ心理学の関係する諸分野の展望を得ることができる。期待にそむかなかつたことを喜ぶ次第である。

(東大講師)

心理学講座の完成

日本応用心理学会

心理学講座の第一回配本を世に送ったのは昨年の一月半ばであったが、それから一年半の間、毎月一回ずつの配本を欠かさず続け、ついに十六回配本をもつてここに完成を見るにいたつた。

歐米にはすでに心理学に関するりっぱな叢書やハンドブックがあるのに、ひとりわが国のみ心理学の研究業績を正しく伝えるに足る標準書がなかつたことを深く憂えていたわが日本応用心理学会が、ついに多年の宿願をここに達成したこと、は、最近の学界における一大快事といはねばならない。

編集のあとを省み、この種の刊行物に

これらの美わしい御協力に対し、この機会に深い感謝の意を表したい。

教育大講師 小保内虎夫著
文部省大教授

心 理 学 人間科学の基礎
定価30円

文部省大助教授
小笠原慈瑛著
教育大講師辰野千寿一
文部省大助教授
小笠原慈瑛著

入門 心理実験法
定価30円

日本応用心理学会大会
研究発表報告

応用心理学論文集
定価30円

九学会連合編集

人類科學(VI)
定価30円

性・能登調査報告

全卷二、四〇〇円(内容見本送呈)
一至三年度毎日出版文化賞受賞

日本生理学会編

生理学講座(全18回)
定価30円

慶應大學教授
医学博士 林 蘭著

生 理 学 概 論
A5判上製函入五二二頁
原色版共挿図二八三葉入
定価七〇〇円・丁六五円

自由意志と心理学

佐久間 鼎

「ねえやが、笑っている吉田さんの写真を見ていて、こぶしを握り、ハーツと息をひっかけて、コツン！ ヨ。大きいハナをつけて、まったく憎らしい！」というの。」
ある主婦グループの都民政談の一節。これにバツを合せて、他の主婦――
「総理大臣は、国民の中にいるべきなのに、このごろの護衛ぶりたら大変なんですっけ。」

さらに同調してもう一人――

「国会の乱闘事件も、吉田さんがもとヨ。外遊のおみやげを作ろうと無理おししたのが、よくなかつたのヨ。」
いわゆる六三事件として歴史的となつた国会の亂闘をきっかけとして、国民一般の政治への関心が高まつたことは、事実といわなければなるまい。ニュース映画で、その場の光景を、マザマザと眼の前に展開さ

れては、いやおうなしに関心をそゝられずにはいられない。「だれのせいだ？」とその責任者を引きずり出して、糾弾しようという気持は、自然にわいて来る。ねえやの言動も、そうしたところから由来したのにちがいないと思う。

何か事に当つて腹を立てるば

あいに、その事のおこりをだれかの行為の（又は無為の）結果として、そこに責任を帰するところから、爆発の目標ができる。内で煮え立つてあふれるものが、目標めがけて突進する。目のかたきをメチャメチャにやつける。そこでウップンがはらされて、緊張が解消する。写真をコツンとやるのは、典型的な代償行動に外ならない。

ところで、責任をどこに求めるかが問題になる。乱闘事件では、左派と右派との両社会党的陳謝が行われたが、それは事件の直接の責任を負うという建前から來ている。行為が、行為者の自主的に学んだ所業だと認められなければならない。

つまり他から強いたれたり、行動の自由を奪われたりしたような場合には、十分な責任を負わせるわけにいかない。自由にふるまう、自由な意志によって行動するとき、責任ある行為が、はじめて可能になる。行為の責任は、つまり自由意志を前提として、はじめて考えられると思う。道徳・法律・

だ。

責任の比重が問題になる。重みをどこにかけるかということになると、事件発生の条件分析が前提となる。そこで見る人よつちがうという意見の対立ないし分立がおこる。目のつけどころの相異によつて結果が、スッカリ変つて来る。結局は人生觀、あるいはイデオロギーの異なりに帰するだろ。

政治などに関連して行為を問題にするとき、それはいつも自由意志を予想しているといつていいと思う。

ところで、自由意志ということは、なるほど哲学の面では、りっぱな問題として、古来論議的になつたところだが、心理学は

はこれにたいしてどういう態度をとるのだろうか？ いはば責任の予想条件であり前提である自由意志の問題を、心理学はそれが価値の問題と同様に哲学の問題であつて、心理学にとっては場ちがいの事柄だとして、回避してすますことができるだろうか？

社会科学——法学も倫理学も政治学も、

それぞれ科学としてのその学の建設を目指し、科学的基盤をこそ求めている。この現実の世界ではたすべき使命にてらして、現実の事実のうちに理法をたずね、根拠をさがしている。責任をもとづけるべき自由意志の問題についても、事実の科学としての心理学へ質問を投げかけている。

心理学がその実証科学的な立場から意志作用の条件発生を検討して、その自由性を認めない方に傾くのは、今日にはじまつたことではない。だが、自由を全然否認するという建前からは、責任という問題が抹殺される外ないのでないか？ 意志の自由を認めずに責任の存立を説こうとする法学

者の試みもあるというが、よほど特別な論法の技術的駆使によって迂余曲折を経て専かれなかぎり、自由意志の否定からは責任の存立は否認されなければいかないとと思ふ。

観念論的には自由が認められるが、事実

上意志に自由選択の可能性が許されないと

すれば、責任はたしてどこへ行く？ 実地の応用を志して現実の問題と取組もうとする心理学にとって、この提起された難問を突破して進路を開くことは当然の責任ではないか？

(東洋大教授)

ある心理学の先生



外林 大作



× × ×

私の職業柄、心理学の先生たちとはいつたまにか親しくなる機会が多い。私はとくべつにこの先生のお気にいりというわけでもない。だから、私もこの先生に気にいられたいと努力もしない。なんとなしに生きてゆくために結びついているようなものである。

中野好夫先生のように、筆も口も達者なら、五十才停年説もよろしいでしょうが、先生のようになんもだめ、口もだめ、なんの取柄もない方は七十迄も八十迄も先生でいなければなりません。先生は筆と口では劣るところがあつても、お人柄の立派な点、日本中のどの心理学者よりもすぐれています。

先生のお講義をきくために、日本中から学生たちが集っています。どうか学校の教壇を去る、などといいやしい気持などおこさないように、と。私は少し馬鹿正直なところがあるので、話をきくとすぐ信じこんでしまう。ところ

御木本幸吉翁に学ぶ

林

譲

五月の末に生理学会が名古屋大学で開かれたので、その帰りに伊勢路の小旅行を計画したら、ついでに御木本真珠王に逢つてはといつてすすめてくれる人があった。それは鳥羽の出身の人で、何かの考え方から、翁と私とを逢はせたがっていたのであった。翁は満九十六歳であるという。逢つてみて老いてはいるがどうして八十歳の老人にも、七十歳の老人にも劣らないのみか、その迫力のある談論、そのものの考え方の高邁なるのは、比較を絶すると、これは私がいうのである。

翁は、自分がもう三年も生きれば、真珠による外貨の獲得が日本の国政の費用の何分のいくつかに当るようにしてみせる。そうなれば、恐らく日本の平和の基礎の一つとして考えてよいであろうといった。成程、これから翁の三年ということの

もそうだと思う。

また、長生きをしなければ、駄目だとう。真珠にしても、自分が長生きをしたからここまで行つたのだ。君が何か自分らしきことをしても長生きをしなければ決して力のあることは出来ない、という。

「だから君は九十まで生きろ、生きると約束をしろ」

私はさすがにそんな約束は躊躇したが、執拗なので、遂に決心して、九十まで生きたいと約束した。

翁は自分は広告というものをしたことはないという。真珠の広告をしたのは一生のうちにただ一度しかない。

自分は新聞なら三面記事をかいて貰うようなことをする。それは他の広告にまさる。自分で広告をするようでは、その事業はまだ青いのだ——という。

意味の重大さはよく判る。このためには真珠の業者を二万人にする必要がある、という。一つのことでなければいけないともいう。人間は二つも三つものこを追うてはいけない。自分は一つだけだ。真珠だけだ。それで世界の全部に通ずるのだ。それいうことであつた。

これも仲々よいことばで、私

意味の重大さはよく判る。このためには真珠の業者を二万人にする必要がある、という。一つのことでなければいけないともいう。人間は二つも三つものこを追うてはいけない。自分は一つだけだ。真珠だけだ。

これは私にはすぐわかった。それは、オリジナルのない時には、自分でわざわざ金を出して広告しないと世界の人に知つて貰えない。然し、オリジナルなものは、かくしても知られる。それは正に今の今まで考へてきたことと一致する。

最後に、近代日本を建設したのは、福沢諭吉を第一とし、伊藤博文、大隈重信、渋沢栄一とそれからこの御木本幸吉である――という。これも私にはよくわかつたし、ある意味でそうであると思うていると、そこで、第六番目には林がなれというに至つて、さすがの私も返事に窮した。

御木本翁が私のことを知つていたとしてほんのごく僅かであるはずで、私の一番重大なものは知つておられるはずがない、してみるとこれは激励の言葉であつたか、いやいや、それにしては同じ迫力でできるというのなぜか――私は正直に、そんなことを考え考え山をくだり、海に出、そして汽車にのり、東京へかえつたのであつた。そこには何か心理的の妙な問題がある。ときどき、帰京してから、なお、私は、翁に逢つてよかつたと考えてゐるに至つては、そこには何かの心理的の問題がある。

(慶大教授・医学博士)

職業指導講座（全8巻）

の刊行について

職業の分化、社会・経済情勢の変転、労働市場の推移、個人差の確認などとともに必ず然の要求として、「職業指導の実践」が世界的にとりあげられるようになってから、半世紀近い年月を経過してきた。

その間に、職業指導の理論と技術の探究には、めざましい進歩がみられ、アメリカをはじめヨーロッパ諸国においても、また、わが国においても、一段また一段と堅実な発展をみて、ついに今日の段階に到達したのである。

学校における職業指導の制度だけからみても、各方面の要望は、行政当局の承認するところとなり、昨年十一月「中学校・高等学校・盲学校、ろう学校の中等部・高等部に職業指導主事を置くものとする」とことが、学校教育法施行規則により明示された。また大学においてもS・P・S活動の一部として、職業指導が活潑に展開されるようになつた。

ここにおいて、日本応用心理学会と、日本職業指導協会は共に力をあわせ、最新の情報にもとづく職業指導の各般の知識と技

術について、それぞれの権威百

余氏に協力をもとめ、わが国の実情に即した基準的な職業指導体系の確立をめざして本講座の編集を企てるに至つた。

淡路田治郎、大河内一男、河

原春作、菊池豊三郎、桐原葆見、

田中寛一の諸先生を最高顧問に仰ぎ、学会と協会の第一線の人々を委員として編集の構想を練り、基礎編三巻、技術的専門編五巻の体系による全八巻とし、今秋第一回配本開始の予定である。

「心理学講座」に続く中山書店の良心的刊行物として、発刊前から多くの期待と賞讃とが寄せられているものである。なお、その内容の概要是、およそ次のとおりである。

第一卷（基礎編 I）

- 1、産業総論
- 2、経済学と職業問題
- 3、産業政策（総論、中小企業問題、農村問題）
- 4、社会政策
- 5、雇用問題（人口問題、失業問題、雇用方法論）

第二卷（基礎編 II）

- 1、職業論
- 2、職業社会学
- 3、労働問題（労働組合論、労働者教育、婦人年少労働、労働文化、労働経済）
- 4、労働統計

第三卷（基礎編 III）

- 1、応用心理
- 2、性格心理
- 3、職業心理（選抜的心理、職業社会心理）
- 4、臨床心理
- 5、カウンセリング
- 6、産業能率
- 7、産業安全
- 8、労働医学

9、産業教育、10、教育統計

第四巻（技術編 I）

- 1、職業指導の原理と技術
- 2、職業指導発達史（外国および日本の歴史と現状）
- 3、中・高校・大学の職業指導
- 4、職業安定機関の職業指導
- 5、職業指導教育法の理論と実際

第五巻（技術編 II）

- 1、職業情報
- 2、職業分析
- 3、進路相談
- 4、あつせん
- 5、就職・進学後の補導

第六巻（技術編 III）

- 1、職指担当者の養成
- 2、女子の職指
- 3、特殊教育と職指
- 4、心身障害者の職指

第七巻（技術編 IV）

- 1、職指と職業的態度
- 2、教科と職指
- 3、高校課程別（普通・農・工・商・水産・定時制）の職指、地域性にもとづいた職指（農村・漁村・商工業地帯別）
- 5、総索引

読者のページ

い研究資料を提供されることを望む。

(前頁より)
じて疑わない。(中山書店刊行・各回配本

福島県岩瀬郡広戸中学校 教諭 角田新平

○難解語句の理解のために心理学辞典など。
○著者の経歴、従来の著書等の紹介。

○関連ある項目などの前著者の補遺や、執

筆後の新らしい文献の紹介。

○全巻の正誤表。

以上は、多くの方々から寄せられた御希望の一部で、このうち、正誤表はぜひあとからお送りいたしたいものと思つておられます。(編集部)

編集部より

金沢市垂下町 学生 末政 哲夫

広い範囲に亘ってまとめられたことは、心理学を広く知る上有効でした。専門的なことについての文献の指導が必要ではないかと思います。

北海道千歳町青葉丘 保育所書記 菅原真一

内容・編集、装本等は非常に良かつたと思います。但し巻数と配本数を同じにして卷単位に発行されたら、最も理想的であつたろうと思われます。

岩手県北上市上野町 高校教諭 三浦三千男

職業上大変有意義なものと思われます。

私の中学は本年数字の基礎力養成についての県研究指定校となり、本講座を参考としているが、希望としては、各教科についての相關的心理、データーなど多く欲しかったと思う。今後とも学力向上のためのよ

盛夏も間近かの六月、予定どおり最終回の配本をおとどけ申し上げます。かえりみますれば、昨春第一回配本以来、一ヵ年半、準備期間とも數カ年を要しました本講座が、進行上の困難を克服いたしまして、ここに完成出来ましたことは、ひとえに編集諸先生方の御執心な御指導と、御執筆諸先生方の並々ならぬ御勞苦のおかげでございまして、編集部一同の深く感謝申し上げるところです。それと同時に、発刊以來終始かわらず御支援をくださいました読者の皆様や、関係者各位の御協力のおかけでございます。ここにあらためて厚く御礼申し上げる次第でございます。

なお、この最終の第16回配本も、御高覧の如く、総索引のためページが増量いたし

ましたので、この回だけ特別に予約特価六五〇円、定価七五〇円とさせていただくのやむなきにいたしました。ここに重ねてお詫びいたしますとともに、なにとぞ御諒承いただきたく、心から御懇願申し上げます。

期間中、皆様方より毎月御熱心な御希望

御批判、激励などのおたよりをいただき、ありがとうございました。これらのおたよりが、編集部のはげみとなり、その後の進行に、いかに役立ったかはいまさら申し上げるまでもございません。本来ならば一々御返事をさしあげるべきでございますが、編集部では、これらのカードを、そのつど分類いたしまして、その中より比較的、要約された方のおたよりを本紙上に掲載させていただきました。残りのカードは全部、当講座の今後の訂正やら、新たな企画の場合の御連絡と参考にさせていただきます。

今後ともお気付の点をお知らせくださいますよう、お願い申し上げるしだいでございます。

完成された本講座が今後、読者の方の立場や職業や生活の如何を問わず、皆様方の一生の伴侶として、生活の指標となるあります。まことに、こうしたことを強く信じて疑いません。